

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 山北 輝裕

研究課題		日本と海外のハウジング・ファーストの比較研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>長期のホームレス状態の人々を支援するハウジング・ファースト (HF) はアメリカで誕生し、現在は世界各地を席卷している。HF の画期的なところは、シェルターなどの「中間施設」を経ずに、文字通り直接アパートに入居することを実現させた点である。従来のホームレス支援プログラムは「トリートメントアプローチ」と呼ばれ、いわゆる階段モデル (staircase model) を前提とし、施設からの「ドロップアウト」の多さが指摘されてきた。それに対して HF によるアプローチの驚くべき点は、路上からアパートに住居を移行した人々が、アパートを出ることなく、そのまま居住する「定着率」である。本研究は日本での HF の完全な実現に向けて、世界の HF による支援がどのように実施されているのかを明らかにすることを目的とする。</p>
	研究の結果	<p>令和4年度はヨーロッパ (フィンランド等) あるいはカナダのいずれか1国に短期滞在し、支援団体の実践を視察、コネクションを構築する予定であったが、渡航を中止した。そのため今年度は文献調査および海外報告に向けての準備を行った。その結果、International Sociological Association2023 での報告が承認された。</p> <p>国内でハウジング・ファースト型の支援を受けた方へのインタビューを複数回行なった。なかでも、都市における地域生活移行後にアパートから退去することの意味世界を考察した。このインタビューの内容については来年度に刊行予定である。</p>
	研究の考察・反省	<p>「市場の論理」と「ケアの論理」(Mol 2008=2020) のもつれを、当該研究の領域においても社会史的な観点からひもとく必要がある。それらの配置構造を明らかにしたうえで、質的なデータを位置づけていく必要があると考える。</p> <p>文献 Mol Annemarie, 2008, The logic of care: Health and the problem of patient choice, Routledge (=2020, 田口陽子・浜田明範訳『ケアのロジック——選択は患者のためになるか』水声社)</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	なし	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		